

2002年 学生 のためのプロデザイン講座

■日 時 2002年5月31日(金)
■場 所 宝仙学園短期大学
■講 師 菱沼 良樹氏

教育研究部会 (関東)

TDA教育研究部会が主催している「学生のためのプロデザイン講座」の第1回講演が、5月31日(金曜日)、宝仙学園短期大学にファッションデザイナーの菱沼良樹さんを迎え、＜洋服における表層と中身＞というタイトルで開催されたので、その模様をレポートします。

最初に「学生のためのプロデザイン講座」についての簡単な紹介をします。去年から始まったこの講座は、ファッションやインテリアなどのテキスタイルデザイン業界だけでなく、今年は「デザインの表層とマテリアル」というテーマで、ジュエリーやサーフェスなどのデザイナーとして活躍されている方々をも講師として迎え、将来、テキスタイル業界で活躍することを希望している学生たちへ、多角的な視点からクリエイターとしての自覚を促し、またテキスタイルの輪というものを広げる為に開設されたセミナーです。今年は6回の講座(1クール3講座で2クール)が予定されています。

さて、ファッションデザイナーとして既に世界的にも有名な菱沼さんですが、ここで簡単なプロフィールを紹介いたします。菱沼さんは1958年宮城県に生まれ、文化服装学院中退後、20歳で三宅一生氏のデザイン事務所に入り、1983年に第1回毎日コレクション大賞新人賞を受賞されました。そして、早くもその翌年には東京コレクションに参加され、ミラノ/パリでのコレクションに新しい風を吹き込まれています。特にパリのコレクションは1992年から現在まで10年連続で参加され成功を納めています。1987年に株式会社菱沼アソシエイツを設立され、1996年には第14回毎日ファッション大賞を受賞。その後の御活躍は、御存知の通りです。

次に、講演の内容についてレポートします。

今回の菱沼さんの講演は、定員30名を予定していたにもかかわらず、約80名もの受講申し込みがあった為、当初予定していたウィメンズプラザの教室から宝仙学園短期大学のホールに場所を移し開講されました。司会進行はTDAの理事であり、また個人的にも菱沼さんと親交の深い宝仙学園短期大学教授の山本清先生です。講演が始まると同時に今年の3月に催された秋冬物のショーのビデオが上映され、その後、この講座の立案及び、主宰をされている武蔵野美術大学の田中秀穂先生と、この6回の講座全体のコーディネートをしている野末和志先生の挨拶があり、そして菱沼さんと山本先生とのトークセッション、菱沼さんのこれまでのコレクションやショーの模様を集めたスライド上映、最後に参加された学生との質疑応答、という内容で講演は構成されていました。

菱沼さんの話の中で、興味深い話は沢山あるのですが、ここでは特に印象に残った話を紹介します。まず、菱沼さんはフリーになった当時、最初はイタリアの生地を使っていたそうですが、それではファッションの世界では競争にならないと、様々な薬品を自分のアトリエに持ち込み、どこにもない新しい生地を作り出す為に試行錯誤をいつも繰り返していたそうです。確かに菱沼さんのコレクションには様々な素材を複合的に組み合わせた生地が登場します。ポリエステルストレッチ素材に絞りの技法を加えたものや、ウールとエナメルをかけた素材、中にはカセットテープのテープを加工して作った服というものもあります。(耐えられない臭いでモデルには不評だったそうです。) また、菱沼さんは新しい技術には目がないと言います。レーザーカットや超音波ミシン、転写プリント、そして最近ではインクジェットプリントなど様々な技術を応用した服を発表しています。「新しい技術は新しい世界と繋がっている、そして新しい未来のおいがる」。菱沼さんの表現する斬新なファッションは、まるで未来と現在を瞬時に行き来するタイムマシンのような服ばかりです。

また、スライド上映の中にあつたパリのオペラ座で行ったダンスの振付師が演出を担当したショーは、異なる業種の人とのコラボレーションで、共通のキーワードから発想するお互いのイメージのギャップが新しいショーの形態を生み出し、特に印象に残るものでした。できるならば、ビデオ映像として動いている場面をぜひ見てみたい、と思ったのは私だけではないと思います。



菱沼さんは自分のことを新しいものにすぐ飛びつくミーハーなデザイナーであると言います。また、一方では自分の仕事は全くデザインとはかけ離れたものである、とも言っています。この不思議な言い回しは、デザインと言うものが決してマスプロダクトと切り離して語られることのない現在、菱沼さんが普遍的で大衆的なものよりも、斬新で世の中に2着も存在しないような服の方に興味があるし、ファッションとして価値がある、と考えていることを物語っています。そして「ファッションとはそのシーズンしか存在しないもの、どことも接点のないシーズンにしたい、といつも思っている」と言う菱沼さんの言葉には、人並みならぬクリエイターとしてのこだわりが滲み出ているように思えました。

学生との質疑応答の中で「自分の服にメッセージはないが、服は何かを語りかけなければならない」という菱沼さん流ロジックは、質問した学生には理解しがたかったかも知れません。しかし、今回の講演は参加した学生にとって「ファッションデザインとは何か」、「クリエイトするとはどういうことか」、と言うことを考える良い機会になったことは確かです。

最後に、学生へのアドバイスとして「同じテキスタイル業界でもインテリアは地味だから絶対にファッションに進んだ方がよい」という菱沼さんのストレートな一言がありました。その地味な方の業界にひっそりと身を寄せている私は、その言葉に苦笑しつつも、やはり世界と渡り合えるような若いデザイナーが育つ、そんな夢のあるインテリアテキスタイル業界へと本気で変えていかなければならないな、と言うことを改めて痛感させられた講演会でした。(レポート 中島良弘)



講師の菱沼良樹氏

(追記)

「学生のためのプロデザイン講座」ですが、1クール残りのスケジュールを記しておきます。

第2回/6月21日(金) 18:00~21:00

野末 和志 <服に変身する服地> 企画コンサルタント

第3回/7月19日(金) 18:00~21:00

梅崎 健 <建装と表層/サーフェスデザイン> 凸版印刷
凸版印刷 建装事業部企画部長

(注意)

上記第3回までの1クールは既に定員に達し申し込みは出来ませんが、次クールのスケジュール等詳しいことは、TDA会員で教育に携わっている先生達が立ち上げている「TEXNET」ホームページの<Contents>を御覧ください。< <http://www.spinn-aker.co.jp/texnet.html> > (TDAホームページのリンクページからもアクセスできます。)

